

## 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	第21回 姫路市地域公共交通会議
<b>2 開催日時</b>	令和3年 5月25日（火曜日） 14時30分～15時50分
<b>3 開催場所</b>	姫路市役所10階 大会議室
<b>4 出席者名</b>	<p>出席者 委員 浅田敦之、岩田稔恵、大塚賢太、片田一真、鴨川義宣、川又淑史、佐々木康武、正司健一、竹内宏、竹田佳宏、常盤真功、永井宏樹、中谷隆友己、難波功、西尾道太、早川泰正、眞野栄治、三輪徹、若松哲郎 以上19名（50音順 敬称略）</p> <p>事務局（交通計画室） 柴田室長、池内主幹、松本課長補佐、山本課長補佐、市村係長、谷口主任、辻技術主任、大西技術主任</p>
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、傍聴人1名
<b>6 議題</b>	<p>「姫路市総合交通計画の策定について」</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」本格運行について</li><li>・コミュニティバス「雪彦」 利用実績（令和3年4月）</li></ul>
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

事務局	<p>定刻になりましたので、只今より「第21回姫路市地域公共交通会議」を開催いたします。本会議の開催にあたっては「姫路市地域公共交通会議規則」第6条第2項の規定により、半数以上の出席が必要とされております。</p> <p>本日は委員22名中、半数以上の19名の皆様に出席をいただいておりますので、本会議が成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>また、本会議は「姫路市附属機関等の会議の公開に関する指針」により、公開することとなっておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。</p> <p><b>【委員紹介】</b></p> <p><b>【配布資料確認】</b></p> <p><b>【都市局長挨拶】</b></p>
事務局	<p>それでは、地域公共交通会議規則第6条の規定により、会議の進行につきまして、会長、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>会議次第に沿って進行したいと思います。</p> <p>本日の審議事項の「姫路市総合交通計画の策定について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>【事務局説明】</b></p> <p>「姫路市総合交通計画の策定について」</p>
会長	<p>前回の会議で皆様からたたき台について色々なご意見をいただき、それを事務局と会長である私の責任において修正を行い、パブリックコメントにかけさせていただきました。</p> <p>今ご説明させていただいた通り、パブリックコメントで寄せられた意見に応じて、再度計画案を見直したものが今回の資料です。</p> <p>ご意見・ご質問等ありましたらご自由にご発言をお願いします。</p>

委員	<p>パブリックコメントの意見（JR播但線の増便等）に対して市の考え方を説明していただきましたが、この意見について、市としては「利用者ニーズに合わせたサービスの提供」と答えられています。しかし、意見された方にとって、増便や増結を促進するという表現が、「利用者ニーズに合わせたサービスの提供」という言葉で結びついていないのではないかと思います。どちらかというと、例えばパーク&amp;ライドやサイクル&amp;ライド等のハード整備が、「利用者ニーズに合わせたサービスの提供」という文言に結び付いているのではないかと思います。そのため、「利用者ニーズに合わせたサービスの提供」という表現を修正したほうが理解が得やすいのではないかと思います。</p> <p>例えばパーク&amp;ライドやサイクル&amp;ライドというのは、利用者を増やすための手法であるため、意見をいただいた方のように、人が増えるのももう少し本数や車両を増やしてほしいという意見に結びついてしまうのではないかと思いますので、市の考え方と、意見と、資料85ページの内容をもう少し整理されたほうがいいのかなと思います。</p> <p>また、資料3の修正箇所⑦ですが、修正理由が「すでに取り組みが進められているため」とあり、修正内容として「取り組みが進められています」という表現に変更するということですが、この取り組みは違う部局が主体となって実施されているため「進められています」という表現にされているのだと思いますが、この計画は姫路市としての発行物であり計画となるため、姫路市としては「進めています」という表現が適切ではないでしょうか。</p>
事務局	<p>まず、パブリックコメントで出ました意見（JR播但線の増便等）についてですが、ご指摘のように、利用者ニーズを反映した計画となりますが、鉄道事業者が設定しているダイヤ等について、行政としても出来る限り市民ニーズに応えるように積極的に増便等の要望は行っていきたいと考えていますが、具体的な内容を計画に位置付けるのは難しい状況でございますので、計画の中に記載しているように、事業の進め方としては積極的にサービス改善・向上を目指していくという表現にさせていただきます。</p> <p>次に、修正箇所⑦の「取り組みが進められています」と表現していることについてですが、これは委員ご指摘の通り本市が主体的に取り組むべき計画であ</p>

会長	<p>るため、委員皆様の承認が得られるのであれば、「取り組みが進められています」という表現を「取り組みを進めています」に修正したいと考えております。</p> <p>後者のご意見はご指摘の通りであり、他の箇所でも同様の事例があるかもしれませんので、精査する必要があります。ご指摘ありがとうございます。</p> <p>前者のご意見は、民間企業である鉄道事業者が、採算が取れると判断されれば動くと思われまますので、そういった判断が起きるほど増えてもらうとありがたいです。そういったことが広い意味で「利用者ニーズに合わせたサービスの提供」という表現になるのかと思います。</p>
会長	<p>すぐに意見が出ないようですので、本日欠席の委員より予めいただいた意見を事務局よりご紹介いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>それでは、本日欠席の委員より伺った意見をご報告させていただきます。</p> <p>提出された意見は4箇所ありまして、その内3箇所については誤字・脱字のご指摘でしたので、これについては今後の計画策定に向けて修正して参りたいと思います。</p> <p>残りの1点については、資料77ページをご覧ください。</p> <p>こちらには、本市の骨格となる公共交通ネットワークを示しております。左側の現況図には姫路駅と姫路港を結ぶバス路線が骨格交通軸として表示されていますが、右側の将来図では、その交通軸をなくし、姫路港と飾磨駅を結ぶバス路線に変更しております。これについて、姫路駅から姫路港を結ぶバス路線及び、姫路港と飾磨駅を結ぶバス路線両方を骨格交通軸に残してはどうかという意見を頂戴しています。</p> <p>事務局の考え方としては、姫路駅と姫路港を結ぶバス路線というのは、現在運行していますが、非常に利用者が少ないために赤字路線となっております。そのため、将来的には、姫路港から最寄り鉄道駅である飾磨駅を結ぶバスルートを確認していくことで、持続可能な市民の移動手段を確認していこうと考えており、本計画の趣旨でもあります。</p> <p>現行のバス運行を廃止するものではありませんが、骨格として両方を残すということについては、計画の方向性が曖昧となることはもちろんのこと、今後</p>

<p>会長</p>	<p>の各交通事業者の健全経営にも支障をきたすことに繋がることから、本計画で掲げる骨格公共交通軸については、現在の計画案の通り進めていきたいと考えております。</p> <p>用語解説の「地域公共交通」の説明で、「都市内や特定地域を運行する鉄道、バス、タクシー、コミュニティバスなどの総称」と書かれています。説明としては正しいのですが、「特定地域」という言い方が、委員の皆様これでわかっていただけますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘の件、検討させていただきます。</p>
<p>委員</p>	<p>資料2の「姫路駅北口のバスターミナル」について、市の考え方が「ご不便をおかけしますが、歩道橋や地下道での移動をお願いします。トランジットモール化をはじめ、歩行者優先の道路空間整備を進めて参ります」とありますが、結局、姫路駅北口のバスターミナルは、利用者にとって、今以上によくなることはないということでしょうか。</p> <p>世界遺産の姫路城があるため、歩行者優先のきれいな道にしようと言いますが、姫路市民としての立場でお話すると、観光で来られた方がスムーズに姫路城に歩いて行くためだけの整備ではなく、公共交通機関を使わなくてはいけない高齢の方などの立場として、雨風に当たらないようにしていただけないでしょうか。結局は、この歩行者優先の道路空間を読んでも、決して姫路駅北口バスターミナルが今以上によくなるような話ではないと思います。</p> <p>市民の立場で参加させていただいているので、市民に対してもう少し優しくなることができないかなと思います。</p> <p>また、JR播但線の増便の話で、福崎行きは車両いっぱいに乗っています。帰り（姫路行き）は人があまり乗っていませんが4両編成で運行しています。それは、子供たちが通学するために4両必要なため、4両で福崎方面に行き、今度折り返して姫路に戻ってくるときは、通勤の時間が少しずれているため、ゆったり乗っています。そういった説明をしないと、質問されている方に、利用客の状況を見て編成をしているため、これ以上の増便は出来ませんといった話に持っていけないと、きれいごとで言ってしまうのも駄目だと思います。</p>

事務局	<p>公共交通を使わないのではなく、もっと高齢者も利用出来るような、ベンチがあり雨がしのげる停留所があればバスに乗ります。駅の設備が悪いからその駅を使わない、駅の設備が良ければ使うといった、逆の発想でもう少し考えていただけたらと思います。</p> <p>姫路駅北口のバスターミナルについてですが、ターミナル（島）利用者は歩道橋や地下道を利用していただいておりますが、バスターミナルの整備については、完了している状況となっております。実際利用されている方が、強風の際など雨に濡れることもあります。今のところはこの状況となります。本日いただいた意見は、担当する管理部署にも共有させていただきますが、今のところ、これ以上は整備が出来ないため、申し訳ありませんがこの表現にさせていただきますたいと思っております。</p> <p>また、JR播但線については、朝の通勤・通学時間帯は大変混雑していることはよくご意見をいただきます。運行状況上、車両編成を適宜変更することは中々難しい状況ではありますが、市も要望として交通事業者の実情を伝えておりますので、ご理解いただきたいと思います。</p>
会長	<p>歩行者優先の道路空間整備を進めて参りますということで、まだ進めるということなので、安全性との兼ね合いだとは思いますが、姫路市民がその動きを支える、市民の方が強くサポートすることが大切かと思っております。</p>
委員	<p>今日もいつも通り「姫ちゃり」に乗ってやって参りました。とても便利だなと思っておりますが、私は半年おきぐらいにしか使わないので、毎回認証せずに乗れたらもっと嬉しいなと思っております。</p> <p>次に本計画ですが、姫路市は、ありとあらゆる課題に対して本当に様々なことを包括的に考えて計画書にいただいているなど感じました。</p> <p>一方で、このコロナ禍で本当に公共交通は厳しい状況です。やはり大事なのは、「はじめに」にも記載されていますが、今後コロナでどのように生活スタイルや社会環境が変わるかを、十二分に考えながら計画を立てないと、あっという間に計画が意味をなさなくなると思っております。</p> <p>また、このコロナで鉄道の長所と短所が改めてよく分かりました。鉄道とい</p>

うのは、通常時にきちんと運行されれば、高速で安定して一度に多くの方に乗っていただける素晴らしい公共交通だと自負しています。一方で、このように何かあるととても調整をしていくのが難しいということが改めて分かりました。極めて柔軟性に欠けまして、すぐに減らすことができない、調整できないといった大きな欠点があります。これが先程ご指摘いただいた通り、混んでいる電車の反対側がガラガラであることもありまして、中々フレキシブルに増発したり増結したりができないというのが、残念ながら鉄道でございます。鉄道というのは、やはり安定的に同じようなお客様がずっとご利用いただく時に最大限の効果を発揮するため、逆にとても利用者数に変動する時には極めて厳しいという欠点があるというのもご理解いただいた上でサービスがどうあるべきかというのを考えなければならないと思っております。

行きの車両4両を6両にして、帰りを1両にすればいいということはよく分かりますが、それができないのが残念ながら鉄道ですので、どうしたものかなと考えながら今のお話を伺っていました。

この計画書を見て、137ページの「他分野の連携強化」が大事だと思いました。バス、鉄道、タクシー、スクールバスや医療バスなど様々な交通手段がありますが、やはりこれらをミキシングしていかないと、これから本当に厳しくなってくるなと思っております。我々も試行的に、鉄道の車両に貨物を載せたりしていますが、このような何でも効率的に運ぶといったことも考えていかないと、これからの公共交通を守っていけないなと思っております。スクールバスや医療バスはおそらく乗客を乗せている時間が違うと思っておりますので、医療バスなどで貨物を運ぶ等色々考えていかなければいけないなと思っている次第です。

もう一点は、資料148ページに書かれています「他分野との連携」です。移動というのは何か目的を持って行うわけですが、その目的自体がなくなってきていますので、無理に移動手段を作るのではなく、他の手段で代替出来るのであれば移動はいらないということを念頭に置いて考えていかないといけない。即ち、今まではスーパーに行って買い物をしていたが、今はネットで注文してすぐに届くという世界になっていますので、果たして本当に移動手段が必要なのか、というところを本気で考えていかなければ全部が全部揃えられないと思っております。さらに、通勤・通学という概念もだいぶ変わってきています。私も、基本的にオンラインが多いため、このような対面の会議はとても久しぶり

事務局	<p>です。従って、移動しなくても会議をしているという世界で、これまでとは状況が大きく変わってくると思いますので、そういったことも含めてコロナが終わったら、どのような目的で移動するのかというのを本当に真剣に考えないと、ふさわしい公共交通を提供できないなと思っています。</p> <p>コロナで、やはり従来型の計画は中々成り立たなくなってきていますので、色々と知恵を出しながら考えていかないといけないなと思いました。</p> <p>今回、コロナ禍での計画策定ということになりますので、ご指摘のように、今後の状況によってはさらに厳しい状況になるかもしれません。そういった中で、本計画の資料 149 ページになりますが、今回の計画の評価及び計画の見直しにつきまして、10 年計画ではありますが、やはり状況を見据えながら、毎年評価を行っていく中で、5 年後にはある程度計画の改訂をするべきではないかと、この計画に掲げさせていただいております。また、先程委員がおっしゃられていた通り、鉄道事業につきましては極めて厳しい経営状況にあるということは、市も認識しているところですし、委員の皆様にもご理解をいただいていると思いますが、やはりその中で、姫路の利便性を低下させないように、鉄道事業者におかれましては献身的に頑張ってくださいということをお場でお伝えさせていただきます。また、資料 137 ページや 148 ページに掲げております、他分野との連携の件につきましては、昨年の 11 月に法改正があり、今後ありとあらゆるモードを活用して、公共交通を維持していくということが必須であるということがうたわれておりますので、出来る限り使えるモードを研究しながら市民の皆様にとって必要なもの、そして持続可能なものを継続的に進められるような事業を展開していきたいと考えております。</p>
委員	<p>資料 71、72 ページの目指すべき公共交通ネットワークの検討で、補足しておいたほうがいいのかと感じたところを述べさせていただきます。</p> <p>現況と将来のネットワーク図を記載されている中で、先程、姫路港の話もありましたが、同様に、北西の安富方向から余部を通って姫路駅へ向かう部分が余部駅で立ち消えになっているように見えます。これは前回のお話の中では、バスは余部駅止めではなく、国道の停留所で人が鉄道に乗り換えて移動するというイメージを示しているものであり、バスはあくまで姫路駅へ向かいますと</p>

	<p>ということでしたが、一目見たときに、市民の方が、姫路駅行きがなくなるのかなと誤解されて、今まで日赤病院まで行っていたのにどうするのといった声も出てくるかもしれませんので、あくまで人の移動のイメージとして軸を結んでいるということを示していただいたほうがいいのかと感じました。</p>
会長	<p>前回は議論があった箇所ですが、なかなか図で表現するのは難しいかもしれません。事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>前回の会議においても同様のご指摘をいただいておりますし、考え方もご指摘いただいた通りでございます。ただちにバス路線の乗り継ぎ拠点を設け、そこに止めてしまうという計画ではございません。一方で、本市の赤字路線への支援額につきましては、年々増加する傾向にあり、空気だけを載せて走っているという厳しいご意見を頂戴する、これはバス事業者も同様かと思いますが、そういったところを少しでも改善出来るような、新たな移動手段を提供、検討していく、考えていくということで、ここに示したようなネットワークで進めていきたいと考えております。</p>
事務局	<p>資料 78 ページの、一番下の数値目標「市民 1 人当たりの公共交通への公的資金投入額（上限額）」の「930 円（2030 年度目標）」の「標」の文字が途切れているというご指摘であるとか、細かいところで誤字等のご指摘もありますので、そういった細かなところでも結構ですので、もしお気づきの点がございましたらご指摘をいただければ幸いかと思います。</p> <p>なお、本編の表紙は、公共交通をイメージさせる車輪であったり、線路であったり、様々なモードを歯車のように噛み合わせていくといった未来的なイメージをこめてデザイン化し、その中に本市で運行している乗り物を表示させていますが、山陽電鉄の下にあるUDタクシーが分かりにくいというご意見をご覧いただいた複数の方からいただいております。そのため、この写真については差し替えを行いたいと思っております。</p> <p>また、資料 17 ページ、新たな拠点整備では文化コンベンションセンターを示していますが、ご承知の通り建物が完成いたしまして、今年度オープンを控えておりますので、こちらについてもイメージ図ではなく現状の写真に差し替え</p>

	<p>を行うといった細かいところを少しずつ修正して、製本時には直近のものに対応したいと考えております。些細なことでも構いませんので、ご意見ありましたら本日でなくても構いませんのでご指摘をいただけましたら幸いに思います。</p>
委員	<p>表紙にまだ余白があるので、小さく播但線の写真を載せていただけると嬉しいです。</p>
事務局	<p>デザインを変更いたします。</p>
会長	<p>先程事務局からもありました通り、誤植などがまだ残っている箇所があると思います。その辺りは会長の責任で事務局と詰めたいと思っております。</p> <p>皆様も読み返していただいて、何か気になる点がございましたら意見をお寄せいただければありがたいと思っております。</p> <p>この計画は今後10年で目指しているもので、5年後には大きく見直すという話がありました。そうでなくても、この会議体の責任として、必要な修正や追加は適宜行っていく必要がありますので、いただいた意見をどのタイミングで活かすことになるかは分かりませんが、寄せていただいた意見は貴重ですので、その点のご協力のほどをよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>もちろん、これで全部の交通計画が出来ているわけではなく、例えば自転車については、放置自転車や自転車道、姫ちやりの話しか載っておりませんので、まだまだ色々と考えていかなければならないことは残っていますが、それはまた全体として進めていくことになるのかなと思っています。</p>
会長	<p>それでは、総合交通計画案については、この形で基本的に認めたとさせていただきます。よろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p><b>【異議なし】</b></p>
会長	<p>それでは承認とさせていただきます。</p> <p>今後については、適宜、必要な修正等を行いますので、ご指摘をお待ちして</p>

会長	<p>おります。よろしくお願いいたします。また、修正については会長の責任の上で行わせていただきますので、その点もよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、報告事項に移りたいと思います。</p> <p>2点、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p><b>【事務局説明】</b></p> <p>(報告1)「福崎町・姫路市連携コミュニティバス『ふくひめ号』の本格運行について」</p> <p>(報告2)「コミュニティバス雪彦 利用実績」</p>
会長	<p>報告事項は以上となります。何かご質問はございませんか。</p>
委員	<p>利便性を向上していくためにコミュニティバスを導入したわけですが、中々利用者数が増えないということで、実情に合わせた運営を行っていくことになるのかなと思いますが、始めたからには、「ふくひめ号」も「雪彦」も維持をしていかなければならないわけで、本格運行を開始した今、どうすれば利用者が増えるのか、その余地があるのか、要は実情に合わせて便数を減らすということをし続けていると戻すことが難しくなるということを考えてときに、更に乗降が増える方法について、何か更なる取り組みがあるのであれば教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>まずは、連携コミュニティバス「ふくひめ号」に関しては、姫路市と福崎町との連携で運行しており、利用率でいくと、圧倒的に福崎町外、姫路市域の利用が多いと聞いております。そのような中、地域のための移動手段ということをもう少し積極的に自治会やご利用いただけるであろう交通弱者の方にPR出来る機会を増やしていくことで維持に努めていきたいと考えております。</p> <p>また、コミュニティバス「雪彦」に関しても同様でございますが、こちらにつきましては、絶対的な地域人口が減少傾向にある中で、導入されたからそれでいい、走っているなら誰か乗るだろうではなく、地域の住民で支えていかななくては維持できない、地域にとってなくてはならないものだということを再三</p>

会長	<p>再四に渡って、担当者が地域に入って説明等をしております。今後も引き続きそういった積極的な取り組みによって出来る限り現状を維持出来るように努めて参りたいと思います。</p> <p>公共交通には公共性があるとよく言われています。公共という言葉定義するのは難しいですが、日本では公共とは公（おおやけ）、お上というイメージが強いような傾向にあります。共（ともに）、コミュニティ等もセットで「公共」なので、共助を強調していくことがこういったサービスを維持する、逆にいうと地域が一生懸命しているほうが市としても公としても支援しやすいので、そのバランスをよく考えていくべきかなと思っております。</p>
委員	<p>コミュニティバス「雪彦」の路線には、終点近くにお店を経営されている方がおられて、我々旅行事業部門との付き合いもありまして、この度コミュニティバスができたことをかなり喜んでおられました。そういった周辺施設の方からお客様にPRしていただけるように、我々も旅行事業を通じてPRしていきたいと思っております。</p>
会長	<p>貴重な情報ありがとうございました。</p> <p>みんなの熱意が一番大切かと思えます。ただし、それを続けるのが一番難しいところではあります。</p> <p>報告事項は以上です。</p> <p>会議事項ではその他となっておりますが、何か委員の方々に報告事項はございますか。</p>
委員一同	<p>【意見なし】</p>
会長	<p>特にお声がありませんので、会議を終了したいと思います。活発な意見交換等本当にありがとうございました。</p> <p>一昨年の10月から一年半以上に渡って議論して参りました姫路市の総合交通計画は、最後、微修正や語句の確認が残っていますが、これから10年の方針を示した計画がほぼ固まりました。この計画をご承認いただいた皆様本当にあ</p>

事務局	<p>ありがとうございました。会長としてお礼を申し上げます。</p> <p>今後事務局より、表紙にも書いてありますが「都市・地域総合交通戦略」としての認定申請及び「地域公共交通計画」としての国への送付という、2つの国の位置づけを得るプロセスを進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。</p> <p>ただ文章を作って終わりではなくこれから勝負ですので、ぜひとも皆様のご協力・厳しいご意見を引き続きいただければと思っております。その点もお願いしたいと思っております。</p> <p>それでは事務局に進行をお返しします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、熱心にご審議いただきましてありがとうございました。最後に、事務局を代表いたしまして、室長よりご挨拶申し上げます。</p>
事務局	<p>本日はコロナ禍の中にもかかわらずご出席していただき、また熱心な審議をいただきありがとうございます。今後は先程会長からもありましたように、計画に沿って公共交通の活性化に向けて取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>また、計画の進捗につきましても、次年度以降、本会議において報告させていただくとともに、見直す点があれば見直していきたいと思っておりますので、今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。</p> <p>また、先程も会議の中でありましたように、誤字・脱字、また分かりにくい表現等については、事務局で修正させていただきますが、もしお気づきの点がございましたらご一報いただけると幸いですので、よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>それでは、以上をもちまして第21回姫路市地域公共交通会議を終了させていただきます。皆様のご協力によりまして、円滑に会議を進行することができました。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>